

日時 令和4年8月26日（金）14：00～15：30

場所 鹿児島市立図書館 2階 研修室

出席者 図書館協議会委員7名、事務局7名

**【会次第】**

- 1 開会
- 2 図書館長あいさつ
- 3 新任委員紹介
- 4 議事
  - (1) 副会長の選出について
  - (2) 令和3年度事業報告及び決算
  - (3) 令和4年度事業計画及び予算
  - (4) 基本的運営方針の指標の達成状況について
  - (5) 電子図書館の利用状況について
- 5 その他
- 6 閉会

**【議事概要】**

**議事（1） 副会長の選出について**

副会長について、鹿児島国際大学 岩下特任准教授へお願いする。

**議事（2） 令和3年度事業報告及び決算**

**（利用状況、事業の実施状況）**

委員

デイジーについて、利用がゼロだったのが残念だ。聾学校や盲学校に積極的に声をかけたり、子どもたちだけでなく教職員にも利用を促したりしたらよいと思う。広報に載せても気が付かれない場合も多いので、気長に続けてほしい。司書を目指す学生を連れてきて利用させるなど、活用していきたい。

**（決算）**

委員

天文館図書館のフロアは賃貸料を払っているのか。

事務局

天文館図書館自体は市がその共有部分の土地とフロア全体の空間を購入し、所有している。

委員

併設のカフェ部分も込みで購入しているのか。

事務局

カフェは民間の法人が賃貸料を払って経営をしている。その法人と連携し、現在の運営を行っている。

委員

カフェでは就労支援も行っているのか。

事務局

カフェを運営する法人が、一部、そういった支援を行う区画も設けている。

委員

その法人には市が賃貸料の補助を出しているのか。

事務局

図書館からは補助は出していない。

### 議事（３） 令和４年度事業計画及び予算

（事業計画（市立図書館、天文館図書館）、企画連携会議）

委員

天文館図書館と市立図書館の関連性について、要覧の７ページを見ると破線になっているが、それぞれのような位置づけとなっているのか。連携を取っていくのか、まったく別の館として運営していくのか。

事務局

要覧７ページの資料は、組織図として記載している。市直営のものは実線で、それに関係のある会議体や、指定管理者により運営されている天文館図書館は破線で示している。図書館法に基づいて、天文館図書館を分館ではなく一つの図書館として市立図書館と対等な関係で独立して設置をしたことによるものである。ただし、中央的な機能を持っているのは、これまで通り市立図書館である。市立図書館と天文館図書館の基本的なサービスは両館とも同じである。一方、天文館図書館は別途にぎわい創出という役割も持っており、市立図書館とは異なる、独自の取り組みも計画している。

委員

天文館図書館の重点施策は、市立図書館と同じものを使っているようだが、より独自性のある施策の入れてよいのではないかと。

事務局

今年度から、市立図書館と天文館図書館はどちらも基本的運営方針に従って運営していくように策定した。その中で、基本目標と重点施策については同じものを用いるが、事業計画についてはそれぞれの館の特色を生かして、違うものを行っていくように考えている。

委員

図書館の重複はどのように考えているのか。複数館に図書が重複しないようにしようといったことや、

蔵書割合をこのようにしようといったような連携は図らないのか。天文館図書館の本は天文館図書館の方針で購入していくのか。

#### 事務局

天文館図書館は独自のテーマとコンセプトを持っているので、選書についても天文館図書館の職員が行う。市立図書館と公民館図書室の図書については、公民館図書室の司書の意見も反映させつつ、市立図書館で選書し、各公民館図書室へ振り分けるという形をとっている。

市立図書館・天文館図書館・公民館図書室、いずれの館・室でも図書を受けとれるようになっているので、利用者にとっては、受け取ることに関しては違和感なく使ってもらえていると思う。

#### 委員

事業計画である程度共通点を持ちつつ、市立図書館と天文館図書館がそれぞれどのような立ち位置を持つのかというところは見ていきたいと思った。また、鹿児島市は人口が多く、市立図書館で借りる利用者もいれば天文館図書館で借りる利用者もいるので、本の重複についてはそれほど気にしなくてもよいのではないかと思う。

また、天文館図書館は障害者サービスに力を入れているとのことだが、具体的にはどのようなことをしているのか。

#### 事務局

併設の放課後等デイサービスに通っている、障害のある若い層に向けた取り組みとして、図書館にて職場体験を行っている。

#### 委員

天文館図書館が開館してから、天文館に若い層が増えたように思う。回遊性があり、周囲もとても好意的に受け取っている。天文館には今までなかった施設で、歩いて行けるアーケード内にできたことがありがたい。天文館図書館を最も利用しているのは、どういった層なのかを知りたい。

また、天文館図書館でも独自で様々な取り組みをしていることとは思うが、私たちも天文館の中で様々なイベントを行っている。町を発展させていくことを目標に、天文館図書館と何かしら一緒にできることはないだろうかと考えている。

#### 事務局

利用者層の割合としては、10～30代が比較的多い。体感としても若い方が多いという印象があり、土日になると、特に児童書コーナーは人が多く集まっている様子だ。また、予約席も多く利用されており、日によっては満席となって、3回転ほどすることもある。自習だけでなく、読書や仕事をしている方もおり、さまざまな使い方で予約席を利用してもらっている印象を受ける。

イベント等、ぜひとも図書館を活用してもらいたい。天文館のビジネス支援といった形でも何か連携ができるようであれば、ぜひとも参加したいと思っている。

#### 委員

天文館図書館の事業計画の中に「定期的なおはなし会等の実施」があるが、これはどのような内容か。また、近代文学館や美術館等と連携した企画について、どのように考えているのか。

#### 事務局

天文館図書館では毎週火・水におはなし会を実施しており、赤ちゃん向けのものと対象年齢を設けないものを一回ずつ行っている。これに絡めて、保健師にお話しをいただき、保護者が気になっている育ちのことや、子育てに関する相談ができるおはなし会の実施を予定している。近代文学館との連携に関しては、10月の読書週間にあわせて、椋鳩十の特集を実施する予定であり、近代文学館と相互利用につながる連携ができないかと相談をしているところである。

#### 委員

市立図書館は近代文学館と連携する予定はないのか。

#### 事務局

現在は計画していない。今後、連携ができないか検討をしたい。

#### 委員

鹿児島市にはメルヘン館など類似した施設があり、同じように読み聞かせを行っている。それぞれの施設で、同じおはなし会でも異なったものができるといいと思う。市立図書館も、科学館と連携した計画など、独自性を活かして行ってほしい。

#### 委員

天文館図書館の企画連携会議は、市民に対する広報は行っているのか。

#### 事務局

9月頭から一般向けに公開し、随時応募できるように告知をする予定である。

#### 委員

企画連携会議は、どのようなイメージを持った上で募集をするのか。応募をして来た方にビジョンを示せるように、ある程度の方向性があった方がよいと思う。

#### 委員

以前、ある図書館にうかがった際に、市民の声を拾い上げて図書館を作っているが、実際に図書館を動かすのは図書館職員なので、ある程度のビジョンを示して運営していると聞いた。確かにそうだと思う。ある程度のビジョンや方向性を示しつつ、軌道修正をする必要がある。

#### 事務局

おっしゃる通り、図書館としてのビジョンは示しつつ進めていく予定である。しかし、図書館の中で市民がやりたいことを実現する体験を提供することも目的の一つとなっている。この活動のコンセプト作りのヒントとして、天文館図書館で高校生が主催した古書のイベントがあった。高校生だけで実施することに対してハードルがあったところを、図書館がサポートして実施した。このような、本にまつわるイベントや、図書館のサービス向上につながるようなイベントであるとより良いと思うが、市民が実現したいことを図書館がサポートしたり、ほかの参加者とのアイデア交換で別の形に発展することがで

きる機会をつくれれば、それが地域の活性化にもつながるのではないかと考えている。継続して参加してもらえるように、あまりハードルを高く設けない、自由な空気づくりをコンセプトのひとつにあげている。

#### (予算)

##### 委員

電子図書館サービス事業費が、令和3年度に比べると半額となっているが、これは厳しい財政状況によるものか。

##### 事務局

令和3年度は導入時のシステム構築にかかる経費が入っている。今年度からは構築ではなく、運用の段階なので、主にランニングコストの経費となっており、事業の規模が変わったものではない。

##### 委員

天文館図書館管理運営経費は、ほぼこの金額で推移していくのか。

##### 事務局

指定管理について、本年度から5年間の契約をしていることから、5年間は同等の経費がかかると見込んでいる。また、センテラス天文館には共用部分にかかるコストがあり、毎年定額でかかってくる。それに加え、資料の購入等にかかる経費があれば、これらに積み上げていく形で予算を組んでいく予定である。

#### 議事(4) 基本的運営方針の指標の達成状況について

##### 委員

コロナが収束していないので、厳しい状況にあることかと思う。

#### 議事(5) 電子図書館の利用状況について

##### 委員

収集方針の中で、NDC分類590番台(家政学・生活科学)への対処はヒントになると思った。

##### 事務局

電子図書館は今年2月にはじめたばかりであり、まだ動向が落ち着いておらず、この傾向が続くかもわからない。電子図書館の商品そのものもまだ流動的であり、今後どのような商品が出てくるかも不明である。将来的に、紙媒体と電子媒体はそれぞれどういった収集方針・構成であるべきか、こういった協議会の場などで決めていきたいと考えている。

##### 委員

期間限定での利用という形の電子書籍は、図書館にとって厳しいと思う。個別の図書館の話ではないが、全国の電子出版社・図書館に見直しを行っていただきたい。

事務局

業者と情報交換を行いつつ、要望を上げていきたい。

事務局

図書館としては書籍の買い取りを行いたいが、出版社の商売としても成り立っていないといけないところが難しい。

事務局

一図書館だけで対応することは難しいので、全国の図書館協会などから要望を伝えていく必要があると思う。

委員

現在、出版業界は紙媒体よりも電子媒体の方で収益を上げている。図書館学会でもこれが問題になっている。

## 6 その他

委員

アンケートの実施結果について、本日の資料にはなかったが、どのようなものであったか、また、どのように活かしていくのか。市民の声を聴いて運営に活かすことは、市の施設にとって最も必要なことだと思うが、いつでも書けるような状況にはなっていないのか。

事務局

アンケートの実施結果は、今年の2月に開催した令和3年度第2回図書館協議会にて触れさせてもらった。その後、館内1階の中央カウンター前にて、図書館として取り組んだ・改善できたこと等を含め、グラフにまとめたものを利用者に向けて公開した。今年度も年明けごろに同じように実施し、市民の声を吸い上げていきたいと考えている。

委員

アンケート実施期間は短くないか。

事務局

アンケートを1,000件程度回収することを目安に実施している。アンケート実施期間は一週間程度ではあるが、十分な数が回収できていると考えている。アンケート以外でも市民の声をいただきたいと考えており、図書館へのご意見の回収ボックスも常に置いている。定期的に意見や要望を確認しており、匿名でなければ回答文書を送るなど、コミュニケーションを取りながら改善しているところである。

会議終了